国史跡

船原古墳

1　所在地　古賀市谷山字柳原1166-１・小山田字舟原506-４外

2　時　　代　古墳時代後期（６世紀末～７世紀初頭）

3　主要遺構　前方後円墳と土坑群

4　主要遺物　馬具（轡・鐙・鞍・杏葉・雲珠・辻金具・障泥・馬鈴・馬冑・蛇行状鉄器他）・武具（挂甲）・武器（弓・鉄鏃）・農工具等

5　指　　定　平成28年10月３日　国史跡

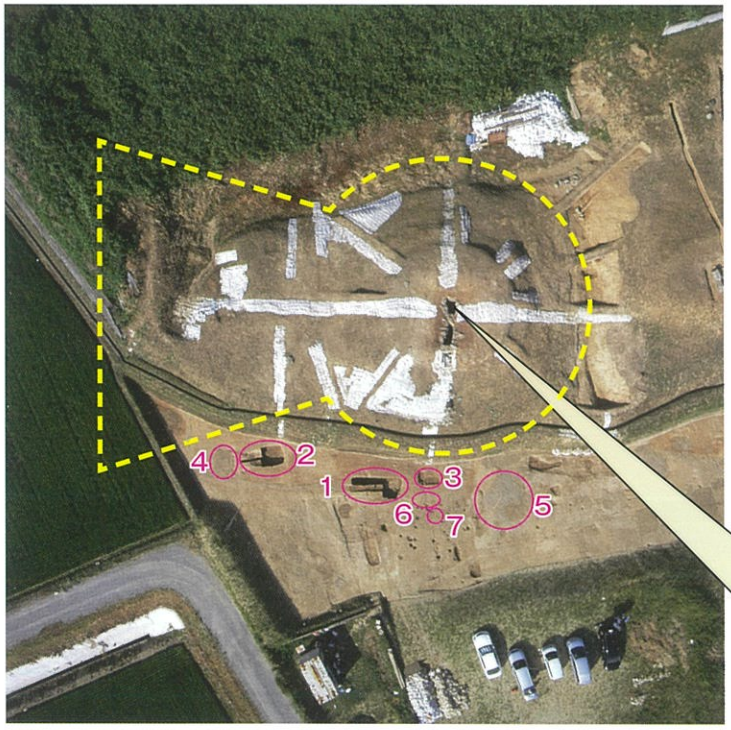
船原古墳の位置

船原古墳は古賀市谷山と小山田の境の低丘陵地に築かれた、古賀市において現在唯一の前方後円墳です。

平成８年の調査では全長約10mの横穴式石室が確認されていましたが、平成25年のほ場整備事業に伴う発掘調査中に、古墳の外で遺物を大量に埋納した１号土坑が発見されたため、墳丘の再調査を行いました。この結果、船原古墳は復元全長45.5m以上、後円部径24.8mの前方後円墳であることが明らかになりました。盗掘などにより石室の内部に副葬品はほとんど残っていませんでしたが、最初の調査で銅地金貼の耳飾や金銅製品の一部が見つかっています。

古墳を見上げる形になる南西側からは馬具・武具・武器・農工具等を大量に埋納した１号土坑など、全部で７基の土坑（写真○部分）が見つかりました。これまで国内には古墳の外に様々な器財を納めた土坑が造られた例はなく、当時の葬送儀礼を考える上で重要な発見でした。

九州北部では、６世紀末から前方後円墳の築造は終焉を迎えます。この時期に造られた船原古墳は歴史上重要な意味を持っています。



上空から見た船原古墳

石室に残された副葬品

船原古墳で発見された逆Ｌ字型の１号土坑からは、馬冑・轡・辻金具・雲珠など６頭分の馬具、弓・鉄鏃（矢じり）などの武器、挂甲（人の鎧）などの武具、鉄製鎌等の農工具など総数500点を超す遺物が出土し、一部は木の箱に入れられて埋納されていました。これらは全国的に見ても質・量ともに傑出した内容であり、特に馬具については朝鮮半島との関わりをうかがわせる遺物が数多く含まれていました。

これらのことから「船原古墳は６世紀末から７世紀初頭の九州北部における前方後円墳の終焉状況、当該地における朝鮮半島やヤマト王権との関係性、葬送儀礼の実態解明等、日本列島の当該期の政治状況や社会を考える上で極めて重要である。」【月刊文化財　９/平成28年　より引用】と考えられています。

１号土坑から出土した馬具

復元画像

馬冑

馬のかぶと。
日本で３例目となる発見です。
６枚の鉄板をたたき出して鋲留めをした精巧なつくりで、朝鮮半島で作られた可能性もあります。

多くの馬具が出土した1号土坑

ガラス装飾付金銅製辻金具

ベルトを固定する金具。
ガラス装飾のものは、国内で初の発見です。

復元画像

福岡大学　桃崎祐輔教授の図を参考に作成

蛇行状鉄器

旗をたてるもの。
国内で十数点しか発見されていませんが、船原古墳では３点も出土し、国内最多の発見です。

金銅製歩揺付飾金具（雲珠）

馬の背中につける装飾品。
CGで復元した結果、国内では例を見ない豪華なものであることがわかりました。

復元画像

轡

馬の口にはめ、馬をコントロールする道具。
引手が金銅製のものは日本でも希少です。
花形、心葉形、棘葉形など６セットの轡が見つかりました。

壺鐙

杏葉

馬の体を飾る道具。
花形、心葉形、棘葉形などの杏葉が発見されました。
鳳凰文心葉形杏葉は、ハート形の地板に左右一対の鳳凰が彫られた透かし彫の金銅板を重ねたもので、高度な技術がうかがえます。

復元画像（鳳凰文心葉形杏葉）

平成30年3月発行　　古賀市立歴史資料館